

平成30年6月14日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26870631

研究課題名(和文) ハワイ併合問題にみる合衆国の政治マンガの機能と役割：他者表象の視覚パラダイム分析

研究課題名(英文) Functions and Roles of U.S. Political Cartoons in Hawaiian Annexation Problem at the turn of 20th century: Visual Paradigm Analysis of Racial Representations.

研究代表者

金澤 宏明 (Kanazawa, Hiroaki)

明治大学・文学部・兼任講師

研究者番号：40550976

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：これまで史料の制約により困難であった、19世紀後半のハワイ併合問題にかかる「一般的アメリカ人(アメリカ人主流派)」の外交意識の心象風景を把捉するため、同時代の紙誌に掲載された風刺マンガを視聴覚史料として扱い、その析出を試みた。
ハワイ大学ハワイアン・コレクション、ハワイ歴史協会アーカイブス、ハワイ州立公文書館、ハワイ州立図書館群などでの史料調査を行い、本研究は、こうした同時代紙誌に掲載された風刺マンガの中に、アメリカ人主流派の外交意識が集約的に構成され、またそこには彼らが持つ対外領土の先住民や市民に対する「白人の優越」に基づいた人種差別表象の視覚パラダイムが内在したことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)： This research grasps the imagined scenery of diplomatic consciousness of "ordinary Americans (mainstream Americans)" toward the Hawaiian Annexation problem in the latter half of the 19th century, which was difficult due to restrictions on historical documents thus far. For that reason, the researcher treated Political Cartoons published in newspapers and magazines of the same era as visual historical documents and tried analyzing them.

The researcher collected political cartoons as historical documents in the Hawaii University's Hawaiian Collection, the Hawaii Historical Society Archives, the Hawaii State Archives and the Hawaii State Libraries.

As a result, this research intensively analyzed diplomatic consciousness of American mainstream among political cartoons published in such contemporary newspapers and magazines, and revealed that there was a visual paradigm of racial discrimination based on "White Supremacy" to indigenous people and citizens of their overseas possessions.

研究分野：アメリカ史

キーワード：アメリカ史 アメリカ対外関係史 領土問題 ハワイ 風刺マンガ 人種表象

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究視点の前提

歴史学の史料論として文章・統計偏重主義が指摘される一方、視聴覚史料の取り扱いを巡る方法論と実証研究の模索はまだ始まったばかりである。視聴覚史料をしばしば文章、統計史料の傍証に活用することがあっても、それらを中核史料として論じ、かつその史料の精度を担保する議論はまだ少ない。そうした中で、申請者は政治マンガ及びアメリカ対外関係史及び文化史の領域に限定しつつも、先行研究でこうした論点(手法及び実証研究を併せて2報)を20世紀転換期のアメリカ外交政策を課題として論じてきた。

今回の研究においては、こうした状況を受けて、20世紀転換期のハワイ併合問題を対象としつつ、これらの諸作品を同時代人がどのように読み、その作品内記号を析出し、判断したのかを分析する。その際に、そこに内在した同時代人の外交政策に対する心象風景や、視覚パラダイムを把握するのが本研究の中核課題である。

また、こうした諸作品を、現代の日本に置く外国史研究において活用する上で、間文化性、間時代性を埋め、かつ十全に理解するために、こうした史料を可視化しつつ、その視点を時代性の再現にも、現代的価値観で俯瞰するメタ的再現においても、理解することも一つの課題である。

(2) 史料検討の場の拡大

こうした前提を捉えた上で、そもそも視聴覚史料を研究者が視覚的に視る「場」自体が限られている。研究論文投稿においても紙面の制約上、視聴覚史料を掲載するには限界がある(例えば国内査読誌では投稿文字数の制限上、図像を掲載する場合はその相当量の文字数を削減しなければならず、比較的10枚以上などの多数の図像を一度に掲載することはまず困難であり、その発表の場は数少ない図像研究の専門誌や紀要などに限られる)。こうしたことから、本研究は論文投稿のみならず、学会大会でのポスター発表、大学施設などでのキュレーション(これは最終的にギャラリーにおける展示会の形となった)WEBサイトでの紹介、ニュースレターなどの発行を通して、視聴覚史料を目に触れる機会を設け、史料を視る場を提供し、また研究課題の中でそうした場所を拡大させるための意識作りも同時に行うことも課題とした。

2. 研究の目的

(1) 視覚パラダイムの計測

視聴覚史料のなかでも20世紀転換期の政治マンガ史料を分析し、外交政策に対する政策決定過程上の重要人物ばかりでなく、同時

代の参政権を獲得していた「一般的なアメリカ人」(ここでは定期刊行物を購入し、参政権を有する白人男性の主流派、いわゆる WASP の層を意図している)の対外政策に対する心象風景を析出することを本研究は目的とする。研究代表者はこれ以前に研究手法論と中米地峡運河(現パナマ運河建設計画)に関する先行研究を発表したが、ここではハワイ併合問題に焦点を当て、先行研究で示唆した視覚パラダイムの作品検討による可視化を目指した。ここでいう視覚パラダイムとは同時代のアメリカ人が共有している認知をさし、こうした理解が対外政策決定過程の背景として存在している点を析出することを目的とした。

視覚パラダイムとして、人種(肌の色)、年齢(「縮小された大人」を含む)、性別、行動などの序列化が、図像学的な記号や表象として諸作品に内在しており、これらを分析し共有認知の傾向を明らかにする。

(2) 政治マンガ史料の公開

本研究ではまた研究の背景における「史料検討の場の拡大」を拡大を課題として、学術論文以外での成果公表も重要な研究成果報告の場とした。具体的にはシンポジウムや口頭の研究報告ばかりでなく、作品群のキュレーション展示、webでの公表、ニュースレターの配布などで、作品群の可視化を行うこととした。

3. 研究の方法

(1) 史料の獲得

海外調査を含めた政治マンガ図像史料の獲得が本研究の中核となるが、こうした図像史料は紙誌に掲載されたものやそれから切り離されたコレクションとして流通しており、日本国内での史料収集は難しい。また、これまで国内外の蔵書を対象に複写を行ってきたが、政治マンガ史料には判型の大きなものや細かい描写のものが有り、一般的な複写では図像が潰れて表現や文字が十全に読み取れないことがあった。実物を入手するのがもっとも重要であるが、しかし政治マンガ史料の特にリトグラフのようなカラー図版は高価になり、雑誌群の購入(120年前前後の雑誌を結合亡く揃えること)ともども現物を入手するのは研究費、研究バランスから考えて困難である。このため、こうしたコレクションを有している施設に依頼し、デジタル撮影や、デジタル・スキャニングなどの交渉を行い、史料獲得を進めた。2008年頃に代表者が進めていた先行研究では、海外施設でのこうしたスキャニングは許可がおりなかったり、可能であったとしても高価であったが、著作権が失効した大学蔵書史料の公開が進む中で、安価あるいは無料でスキャニングが可能となったり、交渉後に施設のデジタル・

ライブラリーで公開すると行った形で史料入手が進展した。また、アメリカ連邦議会図書館では本研究の申請後に新たに多くの史料がデジタル公開され、研究の進展に大きな一助となった。他方で、そうしたデジタル史料でも場合によっては公開を停止している施設や公開されていてもスキニングの精度が低い場合があり、それらについてはマイクロリールなどの形で雑誌群を保有している施設を使い、最新型のリール印刷装置（これまでの紙への印刷ではなく、拡大してPDFや画像などのデジタルファイルでの印刷）が可能な機材でできるだけ精度の高いスキニングを行った。

また、こうした史料をデジタル保存し（はじめからデジタルデータとして獲得したものばかりでなく、コピー複写や実史料でもスキニングを行い）、それらを画像ソフトで画像処理をおこなって解析をした。モニタ上で拡大表示して始めて確認できる情報（誌面では読取りにくい記載、表現）なども存在した（本研究では読者の認知の問題を捉えるため、こうした読者の理解の及ばない、読み取ることのできない表現は対象外としているが、作家側の発信や認識を確認する上で重要な手がかりとなった）。

なお、海外調査における史料調査先は以下の通り。

ハワイ州立美術館（州文化芸術基金アートプログラム文書係 Ozzie KOTANI と面談）。

ホノルル美術館（Robert Allerton 美術図書室、室長 Sachi F. Kawai'ae'a、画家兼同図書室スタッフ Yumiko GLOVER と面談。別日に日本美術部門アシスタント・キュレーター Stefan SALEL、画家兼同図書室スタッフ Yumiko GLOVER とディスカッション及び情報交換）。

ハワイ・ステート・アーカイヴズ（デジタル課 Melissa SHIMONISHI 面談、政治マンガ史料コレクションの確認とデジタル複製依頼）。

ハワイ大学ハミルトン図書館ハワイアンコレクション（司書と面談、政治マンガコレクションのデジタル化の相談。2008年から2009年にかけての先行研究調査でデジタル化の依頼（当時は不可）とその後の明大図書館を通しての交渉（同じく不可）をきっかけにデジタル化が行われていたため、無償供与〔ハワイ大学のWEBサイトで現在は無償公開〕、別司書よりハワイ発行誌情報の獲得）同図書館アジア・パシフィックコレクション、同大学シンクレア図書館で史料収集。

州立図書館本館ハワイ・コレクション部門、マイクロ部門（ハワイ・コレクション司書と面談、政治マンガコレクションの確認とマイクロ部門の蔵書から史料収集）。

ハワイ日本文化センター資料室（資料室マネージャー Marcia KEMBLE と面談、蔵書資料調査）。

Native Books（ハワイ先住民専門書店。書

店員から情報収集と専門書の購入）。

州政府議事堂（州政府議員とのアートセッション。Mike GABBARD 議員の部屋などを訪問）。

ハワイ歴史協会図書館（司書面談、ハワイ歴史協会〔同協会発行学術雑誌〕スタッフ面談。蔵書史料の確認と収集）。

ホノルル陸軍博物館（展示観覧と一部画像・地図の写真撮影、及び図書、ポスターなどの購入）。

他方で予定しながらアクセスできなかった施設も2つあった。ピショップ博物館（パキホール・アーカイヴ利用）はアーキヴィスト面談のキャンセル待ちリストに登録したが最終的に利用できなかった（これは同博物館の縮小によるものとのこと）。また、カピオラニ・コミュニティ・カレッジのコレクションは再構築中で利用することができなかった。

こうした状況ながら、国内外施設を多く活用することで精度の高い史料収集ができた。また、各施設の専門家、司書の知見を活用することで収集史料を一部拡充することが出来たが、他方でハワイ問題の政治マンガとされて、施設でコレクションされていた作品の中には、今回の研究によってハワイの政治マンガではないと確認したものもある。これらを時系列と題材や作家間の異同などを確認して、間文化性、間時代性に注意を払い、視覚パラダイムと読者の認知を分析した。

4. 研究成果

（1）視覚パラダイムの確認

先行研究において代表者が仮説を立てていた分類（類型化）推し進め、前述のような視覚パラダイムが確かに内在され、同時代の人びとの一般共有認知になっていたことが確かめられた。これらの政治マンガ作品は特に定期刊行物の蔵書としてしばしば読者は再帰的に読書を行い、人種主義（人種の序列化）や「白人の優越」といった主流派アメリカ人の認識を強化していったと考えられる。特にアメリカの海外領土に対する他地域（他国表象）において、政治社会情勢の変化に伴い、他国表象の表現傾向も変化したことが明確に確認された。例えば、併合前の経済互惠条約締結期、ハワイ革命期、ハワイ併合論早期、併合後では、同一作家内に限らず、全般的にハワイ表象自体が表彰状の序列の中でパラダイムシフト（子供から大人へ、女性から男性へ、有色人種表象から白人表象へ、あるいはそれらの混在）していくことが明らかとなった。

（2）史料の可視化

本研究の課題として、こうした史料を可視化することも成果公表として行った。研究会、学会報告ではできるだけ画像を提示する手法を採用したが、並列的に複数の画像を眺め

られる機会を模索した。その中では、西洋史学会におけるポスター発表が特に有効であった。史学研究ではポスター発表はあまり行われてこなかったが、近年継続的ではないが試験的に導入する学会大会が増えている。こうした流れのなかで同時に多くの図版を並列的に聴者に訴えかけるポスター発表形式は視聴覚史料研究においても有効である（なお、代表者は日本マンガ学会大会でのポスター発表導入の発起人3名のうちの一人である）。西洋史学会で発表したポスターはその後カラー版、モノクロ版で各種研究会や学会大会などでの配布を行った（インターネット上ででも配布を行った）。

また、収集史料のキュレーションとして展示会を開催した。当初の申請書の予定では国際マンガ図書館で行う計画を予定していたが、同図書館の建設が遅れたため、明治大学和泉図書館のギャラリーを利用してギャラリー展示を約4週間行った。うち1日は研究者を招待して史料の前でギャラリートークを行った。加えて、シンポジウムや研究会でスライド（パワーポイント）資料、ニューズレターの配布の形で、中核的な史料群を示した。

こうした視聴覚史料としての政治マンガの並列的提示と比較分析は、研究会に参加した研究者にこうした史料が傍証ではなく歴史史料として史料批判に耐えうる中核史料として成立していることを確認することを可能にさせた。しかし、それでも展示やニューズレターで紹介した史料は一部であり、今後WEBの更なる活用（今後はWEBばかりでなくNAS等の活用も視野に置く）や、ニューズレターの継続発行を考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 1 件)

(1) 金澤宏明「図像史料と歴史学 邦語研究の研究動向と史料批判の「共有地」と「共有知」」『立教アメリカン・スタディーズ』37号(2015年3月31日) 81-101頁。

〔学会発表〕(計 7 件)

(1) ポスター発表

金澤宏明『20世紀転換期の合衆国政治マンガの機能と役割 島嶼領土他者表象の視覚パラダイム分析』第64回西洋史学会大会、於：立教大学(2014年6月1日)

(2) 口頭報告

金澤宏明『20世紀転換期のアメリカ海外膨張の表象 政治マンガにおける視点の統辞構造及び展開の試論』日本マンガ学会カ

トゥーン部会 2014 年第 1 回研究会、於：早稲田奉仕園セミナーハウス小会議室(2014年9月20日)

(3) 口頭報告

金澤宏明『史料論としての政治マンガ：ハワイ併合問題のカートゥーンに内在するアメリカの視点』政治カートゥーン研究会(明治大学科研費研究会) 於明治大学(2016年3月19日)

(4) 口頭報告

金澤宏明『歴史学に見る翻訳のまなざし 間文化性と当事者性の析出』多文化社会研究会 定例研究会、於：大東文化大学大東文化会館ホール(2016年7月16日)

(5) シンポジウム[主催] 基調講演

シンポジウム(主催) 総合司会：永本哲也、基調講演：金澤宏明、セッション1：柳原伸洋、片淵須直、セッション2：金澤宏明、Ronald STEWART、茨木正治、明治大学科研費シンポジウム『視聴覚史料と記憶 「大きな物語」への抵抗としての政治マンガと文化作品の心象風景』於：明治大学和泉図書館ホール(2017年2月18日)

(6) 口頭報告(同上、セッション2)

金澤宏明『ハワイ併合問題へのアメリカの眼差し 先住ハワイ人へのアメリカ市民権付与に対するアメリカ人の心象風景』明治大学科研費シンポジウム『視聴覚史料と記憶 「大きな物語」への抵抗としての政治マンガと文化作品の心象風景』於：明治大学和泉図書館ホール(2017年2月18日)

(7) 口頭報告

金澤宏明『20世紀転換期のアメリカ島嶼領土の地位と市民権 ハワイの人種表象にみる他者性の変遷とその境界』明治大学西洋史フォーラム、於：明治大学(2017年9月30日)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

(1) 展示会

展示：『アメリカの風刺画・図像表象を眺める ハワイ併合をみるアメリカの視線を中心に』主催：金澤宏明、於：明治大学和泉図書館ギャラリー、会期10月13日～11月7日(うち、ギャラリートークを1日開催した)。

(2) ウェブサイト

20世紀転換期のアメリカ海外島嶼領土問題の諷刺画

<http://ushistory.direct.ne.jp/cartoon/>

(ただし、現在は限定公開で再構築中。諷刺マンガ史料を一部掲載する図書1冊を出版後に、URL(ウェブサイトアドレス)を変更して、単独サイトとして全体の公表を再開する(2018年12月を予定)。

(3) ニュースレターの発行

研究経過や収集史料、分析視点について書いたニュースレター(コピー製本)を4号発行し、主催したシンポジウム、展示会、研究会及び、参加した学会、研究会で配布した。これは上記のWEBサイトで今後PDF形式で公表する予定である。また、本研究の期間終了後も継続的に発行する予定である。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金澤 宏明(KANAZAWA, Hiroaki)
明治大学・文学部・兼任講師
研究者番号：40550976

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()